

世界のセラピストたちは今――

私は自分の施術ルームにて、「リフレクソロジー」のセッションのみを行っています。リフレクソロジーだけで体の各器官から心にまで間接的に触れることができ、エネルギーを届けることができると思っています。

また、ストレスから解放されてゆつくり休みたいというクライアントにとっては、他のセラピーと組み合わせるよりもリフレクソロジーのみのほうが、深いリラクゼーションが得られることもあります。

私は特に、足のリフレクソロジーにこだわります。なぜなら、足をかわいがっていない人が意外にも多いからです。足は体重を支えて歩いていてくれればそれでいいという人や、自分の足の裏をまじまじと見たことがないという人がいます。

足に意識を向けていないということは、グラウンディングができていないということになります。体全体が、「今を生きる」ための情報をキャッチするアンテナだとすれば、足は一番根っここの部分。ところが、地に足がついていない状態だとアンテナは役目を果たせなくなり、その結果、体だけでなく心にも不調

[巻頭コラム]

自分流の手技を「極める」セラピストたち――

文 荻野麻里 (リフレクソジスト)

が起きやすくなってしまいました。

「リフレクソロジーとは何か？」をひとことで表すと、「グラウンディングするためのセラピー」といえるでしょう。このことをクライアントに気づいてもらうのが、リフレクソジストの使命なのだと思います。

リフレクソロジーの施術を終えて、クライアントの顔が明るく生き生きとなるのは、まさに大地とつながってスイッチがオンになったから。このとき私はリフレクソロジーだけで十分効果が得られたのだと実感できます。

興味深いデータをご紹介します。私が所属するICR（国際リフレクソジスト協会）が世界中のリフレクソジストにアンケート調査を行い、10カ国86名から回答が得ました。そして、「リフレクソロジーに他のセラピーを組み合わせていますか」との問いに対し、60%が「はい」、残りの40%が「いいえ」と答えました。

一方、「どんなセラピーを組み合わせていますか」との問いには、約30%がマッサージやアロマセラピーと答えたのに対し、約40%がレイキ、タッピングメソッド、セラピューティックタッチなどのエネルギーヒー

リング系と答えたのです。

現在、世界のリフレクソジストたちは、リフレクソロジーをエネルギーワークに昇華させている段階にあるようです。そのプロセスが、自分流の手技を「極める」ということにつながっていくのではないかと感じています。

さまざまな手技やセラピーを勉強し身につけることは、自己成長のためにも、ビジネス的にも大切なことです。ただ、次から次へと広く浅く習い続ける「お勉強難民」が多いのも事実。なにかひとつ、「これは誰にも譲れない」という手技に徹底的にこだわることも、クライアントの信頼を得ることにつながる、といえるのではないのでしょうか。



顧客満足度を高める
ワンランク上のトリートメント